

請 願 文 書 表

受理年月日 及び番号	令和2年11月5日 第30号
件 名	グリホサート農薬のっていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 320px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 440px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 100px;"></div> <div style="background-color: black; width: 270px; height: 20px; margin-left: 200px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ 萬 立 幹 夫
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

請願理由

現在、全国の学校給食のパンから、農薬のグリホサートが検出されています。グリホサート農薬は子どもの発達障害やアレルギーとの因果関係が疑われています。

パンの原料である小麦の87%は海外からの輸入で、収穫前に農薬を散布して枯らす作業が行われています。その作業で使われる農薬が、グリホサートを主成分とした「ラウンドアップ」です。2018年に農水省が行った輸入小麦の検査では、アメリカ産98%、カナダ産100%からグリホサートが検出されています。国産小麦では検出されていません。

グリホサートを主成分とした農薬は、2015年にWHOの下部組織である国際がん研究機関（IARC）が「人に対しておそらく発がん性がある」と発表しています。近年の研究では、発がん性、生殖毒性、腸内細菌に与える影響など多くの危険性が指摘され、無毒性量以下の僅かな量でも影響を与えるという研究結果も発表されています。EU主要国はじめ、世界の多くの国で「ラウンドアップ」の使用禁止、輸入禁止、規制や残留基準値の引き下げが行われています。

農薬製造元のモンサント社（現バイエル社）は「ラウンドアップ」は植物のみに作用し、人間には安全であると主張してきました。しかし2018年、アメリカで「ラウンドアップ」を使ってがんになったとの裁判が起こされ、モンサント社が十数年前から発がん性の可能性を認識していたことが明らかとなり敗訴しました。

農薬の毒性試験の方法にも問題があります。農薬は主成分と添加物から成ります。毒性試験は主成分のグリホサートのみで行われ、市販される「ラウンドアップ」での試験は行われておりません。「ラウンドアップ」の添加物の毒性は、主成分グリホサートの100倍以上と複数の研究結果が出ています。日本の農薬の安全審査でも、主成分のみの評価で残留基準が決められています。また、添加物に何が入っているかは企業秘密で公開されていません。

子どもは免疫が出来上がっておらず、化学物質への感受性も高いので、大人以上に影響を受けることが心配されます。子どもたちは家庭で出される食事を選ぶことができません。多くの子どもたちが、遺伝子組み換え作物を原料とする食品を日々摂取しています。これまで文京区は自校方式や「和食の日」の設定など学校給食の充実に向けてきました。学校給食では、安心安全な食材を食べられるように、予防原則を採り、文京区の学校給食のパンと麺類などは、国産小麦、有機小麦、米粉パンまたは米飯にすることを求めます。

以上のような観点から、文京区に対して下記のことをお願いいたします。

請願事項

- 1 近年の研究で、無毒性量以下の僅かな量でも影響がでることが懸念されるグリホサート農薬の危険から子どもたちを守るために、学校給食のパン、麺類などでの輸入小麦の使用はやめて、国産小麦、有機小麦、米粉パン、米飯のいずれかに変更してください。
- 2 輸入小麦を使う際は残留農薬の検査体制を整え、数値を区のホームページで公開してください。